



須江小だより

No.1

令和6年4月10日発行

優しい 須江小っ子を目指して

校長 佐々木 淳

須江の丘に春らしい風が吹き渡り、校舎脇の桜は精一杯咲き誇っています。校庭では新しいプールと体育館の建築が進み、新たな始まりへの期待が高まっています。

昨日の入学式では24名の新入学児童を迎え、全校児童215名で令和6年度のスタートをきることができました。校庭や教室には子どもたちの笑顔とにぎやかな声があふれています。新年度は新しい出会いにあふれています。この出会いの喜びを大切にしながら、職員一同、精一杯子どもたちのために努力してまいります。



今年度の須江小学校が目指す学校教育目標は、次のとおりです。

よく学び、心豊かでたくましい児童の育成 ～今、「有情の碑」の願いを新たに～

副題の「有情の碑」は、職員玄関の近くに設置されている石碑で、表面に「有情」と刻まれています。昭和55年に今の校舎が新築されたときに設置され、「有情」には「生きるものすべてに深い愛情をもとう」という願いが込められています。須江小学校の教育の歴史を物語る「有情」を改めて「優しい心」と捉えなおし、目指す子ども像『よく学ぶ子ども、心豊かな子ども、たくましい子ども』の育成を目指す基盤としていきたいと考えました。

そこで昨年度から、「優しい心」に関連し毎日のめあてとして意識させていきたいことを『須江小っ子運動』と名付けてまとめました。

須江小っ子運動 あいさつ はたらく おもいやり



『あいさつ』は、自分から進んで良いあいさつをすること。

『はたらく』は、そうじや係、委員会などの仕事に責任をもって取り組むこと。

『おもいやり』は、友達が困っていたら自然に声をかけるような優しい心をもつこと。

今年度も、この『須江小っ子運動』が子どもたちの心に中に根付き、めあてとなり励ましとなるように、様々な場面で定着を図っていききたいと思います。

今年度も、学校と家庭と地域が互いに連携しながら教育活動を進めていききたいと思いますので、昨年度までと同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

交通安全クイズ ○○を歩く ○○○を見る ○○○をする（答えは裏面）